



第3回内川未来戦略会議 振り返り(2024.9.20)

内川未来戦略会議の命題: 今後、内川がどのようなエリアを目指すべきか、内川が持つ価値を共通認識できるようにしていく

第3回テーマ: 「地域の価値を上げるエリアマネジメント」

委員による主な提言

世界の事例を踏まえても、まちづくりは時間がかかるもの

100年後に向け、まずは20年後の内川を想像し、
世界に誇れるものをつくる → レストラン3店舗を目指す

シェフインレジデンス

- └ 公募: 世界中からシェフを公募
- └ 宿泊施設: シェフや客が滞在
- └ 学校: シェフによる地元住民への食育



地域活性化に必要なもの = ファン(関係人口) × ファイナンス(お金)

人とお金を増やす取り組みを「点→線→面」で広げる

地域活性
ローカルファンド

点: つくるファンド → 人口を増やす(運用期間1年未満)
面: 育てるファンド → 事業を増やす(運用期間3~5年)
線: 持続するファンド → 株主人口を増やす(運用期間5年以上)

人材育成と組織構築

地域で挑戦する人材の育成と中間支援組織の設立

交流人口 → 関係人口 → 株主人口を増やすことを目指す

提言を踏まえた、委員による意見交換

意見交換の概要

具体を決めて進めるべき

- ・何十年先のありたい姿に向かって、期間を区切ってアクションを決める
- ・いつから、どうやってやるのか具体を決めるべき

主役はまちの人

- ・風土や文化的価値について考え直し、住民を含めた会話をしながら変わっていくべき
- ・個人で頑張らず、その場にいる人たちで出来ることを束で見せていく

ファイナンスの重要性

- ・人を呼ぶだけではない戦略の必要性
- ・しろえび漁においても資金面の持続可能性が課題

中間支援組織の必要性

- ・ここ数年で水辺を活用した実証実験を行ってきたが、まちづくり会社や中間支援組織は必要だが、どう作っていくかは課題



漁業を観光に活かしていくと考えたとき、どんな課題を抱えているのか、
どのように課題にアプローチし、どんなアクションが必要かを議論したい。